

京都帝國大學文學部考古學研究報告 第十三册

新羅古瓦の研究

昭和八年—昭和九年

京都帝國大學

京都帝國大學文學部考古學研究報告 第十三册

新羅古瓦の研究

昭和八年—昭和九年

京都帝國大學

序言

京都帝國大學文學部考古學研究報告第十三冊は我が考古學教室及び本冊著者等の名を以て故英國オクスフォード大學教授アーチボルド・ヘンリー・セイス博士 (Rev. Dr. Archibald Henry Sayce) の過去二十餘年に亘る、渝ることなかりし深甚なる同情と誘掖とを永遠に記念せんが爲め、恭しく之を博士の靈に捧ぐ。

客歲二月四日、先生英國バースに於いて溘焉長逝し給ふの報に接するや、中外の學徒知友擧りて此の一代鴻儒の溫容再び仰ぐを得ず、慈音復た聞くことなきを悲しまざるは莫かりき。而かも我が日本の考古學界の今日ある之をペトリイ教授を他にしては、先生の誘掖に負ふ所最も多く、著者等亦た個人として先生の懇情を忝くせるもの、洵に甚大なりしを思へば、哀痛の切なる遽に慈親を喪へるが如く、追憶の新なること、目あたり恩師に別るゝに似たるものあるを覺ゆ。

先生一八四五年(弘化二年)を以て英國ブリストル附近シャーハムプトンに生れ、長じてオクスフォード大學に入り、神學を修め、後ち同大學クインズ・カレッジの「フェロー」となり、遂にアツシリヤ學の教授に任ぜられ、早く聖書の高等批評に其の聲名を世界に轟かし給ひしは、年未だ壯なる頃なりき。爾來エヂプト、パレスチナ等東方諸國に遊び、歐洲各地を訪ひ、探究益々之を努め、西亞諸邦考古學の耆宿として、學德並び高く、終に一代の宗と仰がれ給ひしこと、此處に詳に記すを要せざる可し。而かも先生が多年憧憬の支那陶器の故國と、我が日本とに足跡を印

し給ひしは、一九一一年、先生六十六歳の事なりき。當時余が京都帝國大學講師として、先生を奈良の舊都に東道したるは實に先生を知るの初めなりしが、此の時菊池總長は先生と共に恰も客遊中の羅振玉氏をも招きて、東西の碩學一堂に會するの好機を得給へり。後二年ゆくりなくも余は海外留學の命を受けて、歐洲に遊び、英國に逗ること二歲、此の間或は共にウイッ州の古蹟を訪ひ、或はウエールズに淹留し、或はエヂムバラに先生邸の客として、日夕先生に親炙して、其の誘掖訓陶を受けしが、歐洲大戰の勃發せるも、亦た實に二度目エヂムバラの先生邸に在るの日にして、其の朝先生に侍して南下蘇國を去りしこと、先生自傳の中に記し給へる所なり。戰雲低迷冬を避けて、先生の南佛ニースに坐ますや、市河三喜君と共に其の膝下に在ること月餘、遂に希臘に遊び伊太利に入り、還りて一九一五年再び先生をニースに訪ひて袂を分かちしが、一九一七年先生北米を回遊して復た日本を訪ひ給ひぬ。此の時先生足を京都に留め給ふこと月を踰え、我が大學の爲めにスメル語に關する講演を試むること數回、而かも大學より贈る所の若干金は、擧げて之を我が教室に寄せ給へり。今我が教室藏する所の西亞楔形文字に關する諸文獻は、多くは此の資金に由つて購ふ所なり。當時先生我が大學の狩野、榊、原、内田、坂口等の諸教授と交歡し、荒木總長は先生を圓山長樂館に請じて歡迎の宴を張り、余亦た先生を東道して奈良正倉院をはじめ、伊勢神宮、高野山に詣り、京畿の名勝古寺普く之を探り給へり。かくて此の年十二月遂に神戸埠頭に先生を見送りしが、これ未だ先生と永訣の日には非ざりき。一九二六年、梅原末治君命を受けて歐洲に學ぶこととなりしが、先生の君を遇し、君を導き給ふこと亦た往年の余に對するが如く、君亦た先生の邸に逗ること日を累ね、オクスフォ

ードに於いても前後二ヶ月に亘り、先生の懇切なる指導を受けたりき。

昭和二年(一九二七年)余歐米各國に歴遊することとなり、北米を経て英國に赴き、先生に謁することを得たるは、此の行中最大の悦びの一なりき。乃ちエヂムバラの先生邸に在ること一週日、次いでオクスフォードのクインズ大學の宴に侍し、更に先生とエヂプトのアレキサンドリヤに會し、共に一夜をクラウヂウス・パンシャの邸に語り明かしたりしが、其の翌郊外の小驛頭先生に送られ、別離の涙を拂ひたるは、一九二八年二月某日の夕なりき。此の時先生齡已に八十有三、精神なほ舊の如きも、耳聾し體弱く、次に相見るの日は他の世界に於いてならむと嘆じ給へる語は、今なほ我が耳底に在り。かくて車發して先生の力なき手に帽を振り、やがて人影の間に没し給ひし後姿は、實に余が先生を此の世界に於いて見るを得たる最後なりき。先生大學に學びて後、僧籍に列し給へば身を終る迄娶り給はず、學を友とし、朋を侶とし、其の生涯乍ら聖僧の聖なるにも似たり。たゞ齡高くして故舊相次いで世を去り、孤影孑然として寂寥年と共に加はりぬ。深く自ら安んじ給ふ處ありと雖も、一たび人間の純情赤子の如く優しかりし先生の寂しき臨終の病床に想到すれば、誰か涙なきを得べき。

先生の京都帝國大學に於けるや、初めて之を訪ひ給ひし頃は、未だ我が考古學陳列室の設けなかりしが、余の留學より歸りて、再び先生を迎へたるの日は、體容略ぼ備はりて、先生をして東方稀に見る所なりとの溢辭を得たり。また先生の我が大學に於けるスメル語の講演は、實に日本に於ける這種學術の萌芽を植ゆるの機にして、之に由つて爾來斯學に志すもの漸く出で、我が大學亦た中原與茂九郎君の如きを見るに至れり。加之、我が考古學研究報告第一冊の出

版せられしは、實に先生日本再遊の年にして、其の英文の標題、目次等は、先生と謀りて之を決し、其の校閲を経たるものなることは、吾人の長く記して忘るゝ能はざる所なり。爾來報告書刊行毎に之を先生に贈呈するを例とし、先生亦た常に之に對する懇篤なる批評と激勵の辭を送り給ひき。去歲二月忽然として先生の訃に接してより、余は梅原君と相謀りて、次冊の研究報告書を以て、先生記念の意を寓せんと欲し、拮据編纂漸く此の一冊を成すに至れり。其の研究未だ竭さず、資料なほ蒐め得て完しと言ひ難きは、深く之を先生と學界とに耻づるものありと雖も、新羅古瓦研究に一步を進むるものあらば、以て永く先生の名を極東學界に記憶するの一端ともなり、先生追慕の情を表するを得るに庶幾らんか。^{*}

昭和九年五月

濱田耕作

(*) 先生の自傳は“Reminiscences”と題し、一九二三年英國マクミラン社より出版せられたるが、冒頭誕生の時の事を記し、‘Later on I was distinguished by a shock head of coarse black hair, somewhat like that of a Japanese’ とあるも、先生と日本との縁深きを見る。同書第十九章 ‘The Far East’ 及び第二十一章 ‘War: America and Japan’ に日本來遊中の事を詳に叙し給へり。なほ初度來遊の事は余『藝文』(第三年第四號)に「セイス老博士」と題し、また第二次のそれは新村博士の「セイス教授を送る」と題する一文同じ雑誌(第九年第一號)にあり。先生の特別講演の概要亦た同じ號に掲げたり。先生の訃音に接して後余は其の追憶を雑誌『ドルメン』(第十號)に記し置きぬ。

新羅古瓦の研究

目次

第一	新羅古瓦の蒐集と其研究	一頁
第二	朝鮮に於ける瓦甃の使用	七
第三	慶州に於ける瓦甃發見の遺跡	一四
第四	慶州發見新羅古瓦甃の種類	三三
第五	圓瓦附橢圓瓦等	二九
(イ)	蓮華紋系瓦	二九
(ロ)	禽獸紋系瓦	三五
第六	平瓦	三八
(イ)	唐草紋系瓦	三八
(ロ)	飛天禽獸紋系瓦	四二
第七	甃及其他の瓦	四八
(イ)	敷	四八
(ロ)	壁	五一

第八 慶州古瓦の圖紋と出土遺跡との關係……………五七

第九 新羅古瓦の特質——結論……………六五

新羅古瓦聚成圖地名索引……………卷末

新羅古瓦集成圖目次

本文對照頁

第一——第一四	蓮華紋系圓瓦(寫真).....	二九——三三
第一五——第一七	禽獸紋系圓瓦(寫真).....	三五——三七、六一、六二
第一八	楯圓瓦(寫真).....	三四
第一九	楯端飾板(寫真).....	三四
第二〇——第三三	蓮華紋系圓瓦(拓本).....	二九——三三
第三三——第三七	禽獸紋系圓瓦(拓本).....	三五——三七、六一、六二
第三八	楯圓瓦當(拓本).....	三四
第三九——第四二	唐草紋系平瓦(寫真).....	三八——四二
第四二——第四五	飛天禽獸紋系平瓦(寫真).....	四二——四六、六一、六二
第四六——第五〇	唐草紋系平瓦(拓本).....	三八——四二
第五一——第五九	飛天禽獸紋系平瓦(拓本).....	四二——四六、六一、六二
第六〇——第六三	敷(寫真).....	二六、四八——五一
第六四·第七二	壁(寫真).....	二六、五二——五六
第六五——第七〇	敷(拓本).....	二六、四八——五一
第七一	壁(拓本).....	二六、五二——五六
第七三——第七六	鬼板鴟尾類(寫真).....	二五、五五、五六

挿圖目次

第一圖	易州出土半圓瓦當及圓瓦(京都帝國大學藏)	八
第二圖	傳阿房宮出土圓瓦(據『秦漢瓦磚集錄』)	八
第三圖	支那六朝唐代圓瓦例(1)南京秀山公園出土(2)大同雲崗石窟(3)大同雲崗石窟(4)大同雲崗石窟(5)大同雲崗石窟(6)	八
第四圖	傳唐太宗陵出土	八・九
第五圖	(一)朝鮮大同江面土城發見漢圓瓦四種(伊藤庄兵衛君藏)	一〇・一一
第六圖	(二)同扶餘發見圓瓦二種(京都帝國大學藏)	一〇・一一
第七圖	朝鮮平壤附近發見高句麗時代圓瓦六種(伊藤庄兵衛君藏)	一〇・一一
第八圖	朝鮮開城附近發見高麗時代瓦端文 <small>圓瓦四種 平瓦二種</small> (伊藤庄兵衛君藏)	一〇・一一
第九圖	扶餘發見博文拓影(梅原拓本)	一一
第一〇圖	慶州皇龍寺金堂址(朝鮮總督府寫真)	一五
第一〇圖	慶州四天王寺金堂址(朝鮮總督府寫真)	一六
第一〇圖	(一)靈鷲寺(蔚山郡青良面靈鷲洞)瓦拓影	一六・一七
第一〇圖	(二)鷲仙寺瓦拓影	一六・一七
第一〇圖	(三)忠清南道公州廢寺發見古瓦拓影(輕部慈恩君拓本)	一六・一七
第一二圖	慶州附近古寺寺址位置圖(小野三正君製圖)	一八・一九
第一二圖	慶州四祭寺址出土平瓦	二二

第一三圖	慶州出土各種瓦 (一)圓瓦完形品 (二)楕圓瓦 (三)隅瓦 (四)土壁等所用瓦	二四・二五
第一四圖	(一)慶州黃龍寺發見圓瓦范及慶州出土同文瓦 (二)慶州附近出土平瓦完形品(齋藤忠君寫真)	二四・二五
第一五圖	臨海殿址出土圓瓦縱斷面(有光教一君原圖)	二三
第一六圖	慶州出土平瓦端部斷面圖(梅原)	二四
第一七圖	祇林寺址出土石鴟尾圖(能勢丑三君)	二五
第一八圖	四天王寺址出土千鳥形瓷	二六
第一九圖	蓮華紋瓦當發展推定圖(濱田)	二九
第二〇圖	慶州發見蓮華紋諸形式圖(濱田)	三〇
第二一圖	多賀城圓瓦	三二
第二二圖	正倉院御物紅牙撥鏤尺雙鵝紋圖(據原田淑人君)	三五
第二三圖	支那西域發見經卷見返對鵝紋圖(據スタイン氏『セルインデア』)	三六
第二四圖	慶州發見唐草紋系平瓦諸形式圖(濱田)	三九
第二五圖	南法華寺鳳凰磚(飛鳥園寫真)	四三
第二六圖	岡寺天人磚(飛鳥園寫真)	四五
第二七圖	筑前太宰府學業院址出土磚(福山敏男君寫真)	四八
第二八圖	支那及四隣各地發見唐代畫磚拓影	四八・四九
第二九圖	正倉院七寶鏡(據『東瀛珠光』)	四九

第三〇圖	驪州神勤寺塔及埽(據「古蹟圖譜」)	五二
第三一圖	清道佛靈寺廢塔(據原田淑人君報告)	五四
第三二圖	慶州臨海殿址發見圓瓦平瓦甃等(有光教一君寫真)	六〇六一
第三三圖	慶州各地發見迦陵頻伽紋圓瓦拓影	六二六三
第三四圖	慶州各地發見迦陵頻伽紋平瓦拓影(其一)	六二六三
第三五圖	同 上(其二)	六二六三
第三六圖	慶州各地發見同型下顎文拓影	六二六三
第三七圖	慶州發見骨壺(東洋軒寫真)	六三
第三八圖	(一)四神八封飛天鏡	六六六七
	(二)寶相華紋八稜鏡	六六六七
第三九圖	日本圓瓦諸例	六六六七
第四〇圖	日本平瓦諸例	六六六七
第四一圖	日本發見新羅風瓦紋拓影	六六
第四二圖	慶州興輪寺址發見人面紋瓦當(有光教一君)	四七
第四三圖	慶州沙正里發見畫甃拓影(齋藤忠君)	七二
第四四圖	同上 寫真(同上)	英文(六)

京 都 帝 國 大 學 文 學 部

版
權
所
有



昭 和 九 年 九 月 一 日 印 刷
昭 和 九 年 九 月 十 日 發 行

新 羅 古 瓦 の 研 究

編 輯 代 表 者

濱 田 耕 作

發 行 者

尾 高 豐 作

印 刷 者

福 井 松 之 助

京 都 市 中 京 區 柳 馬 場 三 條 下 丸

東 京 市 神 田 區 駿 河 臺 三 〇 六

發 行 所

東 京 市 神 田 區 駿 河 臺 三 〇 六

刀 江 書 院

電 話 神 田 三 三 七 一 及 三 三 一 八 九
振 替 東 京 七 三 一 一 八 九

定 價 金 拾 圓

株 式 會 社 似 玉 堂

東京帝國大學考古學部研究報告冊目

第一冊	肥後に於ける裝飾ある古墳及横穴 (大正六年發行) 絶版	濱田耕作、梅原末治
第二冊	河内國府高安及貴志石器時代遺跡發掘報告 河内國府肥後轟等にて發掘せる人骨 (大正七年發行) 絶版	濱田耕作、梅原末治、島田貞彦 鈴木文太郎
第三冊	九州に於ける裝飾ある古墳 彌生式土器形式分類聚成圖 (大正八年發行) 絶版	濱田耕作、梅原末治、島田貞彦
第四冊	河内國府石器時代遺跡第二回發掘報告 (大正九年發行) 絶版	濱田耕作、長谷部言人
第五冊	備中國津雲貝塚、肥後國轟貝塚發掘報告 (大正九年發行) 絶版	〔清野謙次、島田貞彦 濱田耕作、榊原政職〕
第六冊	薩摩國出水郡出水町尾崎貝塚發掘調査報告、出水貝塚の貝殻獸骨及び人骨、薩摩國揖宿郡指宿村遺跡調査報告 (大正十年發行) 定價金四圓	〔濱田耕作、島田貞彦 長谷部言人〕
第七冊	攝津高槻在東氏所藏の切支丹遺物、京都及其附近發見の切支丹墓碑 切支丹教名合字鞍及南蠻人繪鞍に就いて 日本發見銅鍔銅鉞銅劍聚成 (大正十一年發行、同十五年再刷) 定價金七圓	新村 出、濱田耕作 濱田耕作、梅原末治
第八冊	近江國高島郡水尾村の古墳 日本發見金製耳飾劍環頭同鹿角製刀裝具聚成 (大正十三年發行) 絶版	濱田耕作、梅原末治
第九冊	豊後摩崖石佛の研究 (大正十四年發行) 絶版	濱田耕作
第十冊	出雲上代玉作遺物の研究 日本發見磨製石鏃及石劍聚成 (昭和二年發行) 定價金八圓	濱田耕作、島田貞彦、梅原末治
第十一冊	筑前須玖史前遺跡の研究 須玖岡本發見の古鏡に就いて (昭和五年發行) 定價金八圓	島田貞彦 梅原末治
第十二冊	讃岐高松石清尾山石塚の研究 (昭和八年發行) 定價金八圓	梅原末治

REPORTS UPON ARCHÆOLOGICAL RESEARCH

- Vol. I. Ornamented Tombs in Higo. ... By K. Hamada & S. Umehara.
47 Plates (1917) *(Out of Print)*
- Vol. II. Excavation of Neolithic Sites at Kô, Kishi, &c. ...
... .. By K. Hamada, S. Umehara, S. Shimada & B. Suzuki.
31 Plates (1918) *(Out of Print)*
- Vol. III. Ornamented Tombs in Kyûshû... ..
... .. By K. Hamada, S. Shimada & S. Umehara.
Corpus of the Yayoi-Type Pottery.
35 Plates (1918) *(Out of Print)*
- Vol. IV. Second Excavation at Kô, &c. ... By K. Hamada & K. Hasebe.
24 Plates (1920) *(Out of Print)*
- Vol. V. Excavation of the Shell-Mounds at Tsukumo and Todo-
roki in Higo.
... .. By K. Kiyono, M. Sakakibara, S. Shimada & K. Hamada.
53 Plates (1920) *(Out of Print)*
- Vol. VI. Excavation of the Shell-Mound at Idzumi in Satusma...
... .. By K. Hasebe, S. Shimada & K. Hamada.
A Prehistoric Site at Ibusuki. By K. Hamada.
39 Plates (1921) *(Out of Print)*
- Vol. VII. Christian Relics Found at M. Higashi's House near
Takatsuki. By I. Shimmura.
Tomb-Stones of the Christians in the 17th Century found
near Kyoto. By K. Hamada & S. Shimmura.
Two Horse-Saddles with Pictures of Portuguese Mer-
chants, &c. By K. Hamada & S. Umehara.
Corpus of the Bronze Implements Found in Japan.
40 Plates (1923) *6 Yen*
- Vol. VIII. Ancient Sepulchre at Midzuo, Omi. By K. Hamada & S. Umehara.
21 Plates (1923) *(Out of Print)*
- Vol. IX. Rock-cut Buddhist Images in Bungo. By K. Hamada.
77 Plates (1925) *(Out of Print)*
- Vol. X. Studies on the Remains of Ancient Bead-workers in
Idzumo. By K. Hamada & S. Umehara & S. Shimada.
Corpus of the Polished Arrow-heads and Daggers.
43 Plates (1927) *8 Yen*
- Vol. XI. Studies on the Prehistoric Site at Okamoto, Chikuzen.
... .. By S. Shimada.
A Special Study of the Ancient Mirrors found at Oka-
moto. By S. Umehara.
30 Plates (1930) *8 Yen*
- Vol. XII. Study on the Cairns on Mt. Iwaseo near Takamatsu, in
Sanuki. By S. Umehara.
Corpus of the Stone Sarcophagi with hollowed Head-rests.
45 Plates (1933) *6 Yen*

Edited by the ARCHÆOLOGICAL INSTITUTE, KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY

Publishers: THE TOKO-SHOIN, 23 Kitakôgachô, Kanda, Tokyo

REPORT UPON ARCHÆOLOGICAL RESEARCH
IN THE DEPARTMENT OF LITERATURE, KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY
VOLUME XIII, 1933-1934

STUDY ON
THE ANCIENT TILES OF THE
SILLA DYNASTY, KOREA

WITH
A CORPUS OF ANCIENT TILES OF THE SILLA DYNASTY



THE KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY

PUBLISHED BY
THE TÔKÔ-SHOIN, TOKYO
1934